**第２学年４組　道徳科学習指導案**

１．主題名　見て見ぬふりって何？　＜公正、公平、社会正義【C－11】＞

２．教材名　「わたしのせいじゃない」（出典：教育出版「中学道徳２『とびだそう未来へ』」

３．ねらい

いじめられている人を見ているだけという行動に、正面から向き合い、考えることを通して、人間の弱さに気づきながらも、公正な行動を取ろうとする態度を育てる。

４．道徳的価値について

　　中学２年生にとって、公のことと自分のこととの関わりに目を向け考えていくことは難しい。そこで、生徒にとって身近な教室内でのいじめを題材として取り上げ、見て見ぬふりをしたり、避けて通ったりするといった消極的な立場から脱し、自分との関わりに気づかせ、問題の解決に目を向けさせていく。

５．生徒について

　　本学級は、男女ともに仲が良く、男女分け隔てなく談笑している姿を見ることができる。悪口や暴力がいけないことはよく理解しているが、傍観者の責任について考える機会は少ない。積極的に自分の意見を発言できる生徒が多く、この教材を通して、変容を見てとることができる集団である。

６．教材について

　　本教材は、絵本を用いることで親しみやすく、強いメッセージ性を感じることができるものである。いじめの傍観者として無責任な発言が続き、責任をなすりつけ合う様子から、いじめと傍観者の責任について考えることができる教材になっている。

７．指導について

　　ティームティーチングで授業をすることで、テンポよく生徒の意見を引き出せるようにする。また、補助発問をしながらイメージマップに書き加えていくことで、生徒の考えをより深めさせたい。

導入部では絵本を読み、いじめている子や傍観者の発言から、いじめや傍観者の責任について考えさせたい。絵本を読んで感じたことから、本時のめあてを設定することで問題解決的に授業展開をしていく。

展開部では、生徒の発言から補助発問をし、見て見ぬふりをしてしまう人間の弱さや、被害者の気持ちなど、多面的・多角的に考えさせる。

終末では、生徒に自分自身がその場で見ている人だったらどうするかを考えさせることで、自分なりの納得解が得られるようにしたい。

８．指導過程

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 学習活動 | 主な発問と予想される生徒の反応 | 指導上の留意点 |
| 導入 | １　絵本を読んで感想を出し合う。（１）感じたことを付箋に書かせる。（２）付箋をグループごとに模造紙にまとめる。（３）黒板にまとめ、全体で共有する。（４）本時の目標を確認する。 | 絵本を読んで、どんなことを感じましたか。・誰かが止めたらいい。・一人で行動することは難しい。・本人にも問題があるのではないか。・見ているだけの人にも責任がある。・理由によると思う。・始めたのは自分じゃない。・見ていてこわい。本当にわたしのせいじゃないのだろうか？ | ・全体で発表させたものをもとに、黒板でイメージマップを用いてまとめる。・生徒の発言から本時のめあてを設定する。・傍観者の責任について、自分のこととして考えさせる。 |
| 展開 | ２　いじめの傍観者の責任について考える。 | 見ていただけの人は悪いのだろうか。・見ているだけでも一緒にやっているのと同じだと思う。・他人の事だから関係ない。・助けたくても、こわい。自分が大事。・見ていただけで自分は手を出してないから悪くない。補助発問１　この子（被害者）はどんな思いだったのだろうか。見ている人たちのことをどう思っているのだろうか。・だれか助けて。・僕は悪くないのに。・見ている人たちにも冷たくされているように感じる。補助発問２　自分が見ている人だったら、どうするか。・泣いている子に声をかける。・自分は助けられないので、人を呼ぶ。・みんなで声をかけにいく。 | ・正しくないとわかっていながら、行動できない人間の弱さについて考えさせる。・見ているだけの登場人物に焦点を当てて、考えさせる。・方法が出てきたときは、さらに聞き返し、その行動をとる思いを話すことができるようにする。 |
| まとめ | ３　本時で学んだこと、自分の考えをポートフォリオに書く。 | 本当にわたしのせいじゃないのだろうか？ | ・本時のめあてに戻り、授業を通して感じたことや考えたことを書かせる。 |

９．本時の評価

　いじめられている人を見ているだけという行動に、正面から向き合い、考えることを通して、人間の弱さに気づきながらも、公正な行動をとれる実践意欲を高めることができたか。